

JOCジュニアオリンピックカップ
第46回全日本中学生ホッケー選手権大会

【今大会レギュレーション(TD通達)】

1. 大会運営 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技運営規程ならびに第46回全日本中学生ホッケー選手権大会実施要項による。
2. 競技規則 (公社)日本ホッケー協会2016年度6人制ホッケー競技規則による。
3. 競技時間 試合時間は、前半15分・後半15分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
4. 時計 試合時間は、ジャッジ席で管理する。
5. 競技方法 (1) 男女とも、3チーム総当たりの予選リーグを行い、上位各2チームが決勝トーナメントに進出する。
(2) 決勝トーナメントにおいて規定の時間内に勝敗を決しないときは、延長戦は行わず、試合終了後ただちに「7」に定めるシュートアウト戦(以後「SO戦」とする)を行い、勝敗を決する。
6. 予選リーグの順位決定方法
(1) 勝ち点の多いチームを上位とする。勝ち点は、勝利チームに3点、引き分けチームに1点、敗戦チームに0点をそれぞれ与える。
(2) 勝ち点が同点の場合は、下記の順序・方式により順位を決定する。
 - ①リーグ戦における「得失点差」(「総得点数-総失点数」の差が多いチーム。)
 - ②リーグ戦における「総得点数」の多いチーム。
 - ③上記において、なお同点の場合、「7」に定めるSO戦により順位を決定する。
なお、同位チームが3チームの場合のSO戦は、同一チームが連勝したとき、そのチームを1位とする。
7. シュートアウト戦(SO戦) ※詳細については2016年競技規則及び2016年競技運営規程参照
(1) 両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、エントリー済みの選手の中から3名の選手と1名のゴールキーパーを指名する。
(2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後、両チーム3名ずつの選手により交互に攻防を1巡行い(計6回)、得点の多いチームを勝者とする。
(3) (2)の方法によって勝敗の決しない時は、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数の攻防を行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再SO戦を行う。この時は、ゴール数が同じであった場合、選手はプレー不可能な者を除き各チーム同じ選手により先攻後攻を入れ替え、以降のSO戦を行う。ただし、順序は変えても良い。
8. 試合の中断と追試合
天候のやむを得ない理由により、試合が中断された場合は、下記により試合を再開する。
 - (1) 追試合の場合は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行う。
 - (2) 追試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。
9. チームベンチ
チームベンチには、エントリーされた者以外は入ることができない。
(但し、学校長、3年生等TDの許可を受けた者はこの限りではない。)
10. フィールドへの立ち入り
試合中、選手にケガ等が起こった場合は、ベンチ内にいる手当てをする者及び監督・コーチどちらか1名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができる。(コーチングは禁止)
11. 選手の交代
(1) 各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティーコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備側のゴールキーパーは除く)

- (2) 一時退場（イエローカード：3分以上）させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。
- (3) 選手の交代は、ジャッジ席にその意を伝えた後、ジャッジ席前方のセンターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行わない。但し、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

12. 平成 28 年度ルール確認

- (1) 決勝トーナメントの全ての試合において延長戦は行わず、SO 戦にて勝敗を決する。
- (2) コーナー再開位置(規則 7.4b)について、ボールがバックラインを横切った地点の延長線上でバックラインから 16m 地点に変更する。
- (3) PC 時におけるフライング（攻撃側・守備側）およびフェイントについては、罰則としてセンターラインに戻す。
- (4) ハイスティック規則を廃止する。
※上記（2）（4）については H28.4.27 6人制レギュレーション変更について通達による

13. 確認事項

- (1) ユニフォームは必ず2着用し、グラウンドへ持参すること。
- (2) 選手はすね当てを必ず着用し、ストッキングを上まであげて履くこと。
- (3) キャプテンは、上腕及びストッキングのどちらかにキャプテンマークをつけること。
- (4) ゴールキーパーは、ケガの防止のため装具を完全に着用すること。アンダーパッドは必ず使用すること。（チームの責任で遵守すること）
- (5) チームベンチは、[競技日程表] の左側のチームが赤印のついたベンチとする。
- (6) 試合開始 15 分前にメンバーチェック及びリングパス、服装・装具の点検を実施するので、次試合のチームはチームテント横で待機すること。なお、メンバーチェックは「登録証」を持参して行う。スターティングリストは30分前にジャッジ席へ提出。
- (7) ペナルティーコーナーの保護具は試合開始前に必ずTO に使用確認すること。
- (8) 応援者は、会場指示に従うこと。（監督は事前に保護者に説明すること）
- (9) 試合中、乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は、厳に戒める。なお、今年度より、全チーム監督は「行動規範確認書」に署名し提出することとする。（2016 競技運営規程 付属書4 参照）
- (10) 選手が負傷により出血したとき、頭・顔・心臓付近にボールが当たったときは審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じたときは直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、再出場できない。（2分以上の安静）
- (11) 棄権または試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になった場合は、その試合は没収試合とする。
 - ① 予選リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、残りのチームで順位を決定する。
 - ② 決勝トーナメントにおいて没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。
- (12) 「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷事故報告書をTOまたはTDに提出する。本人への健康確認のうえ、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷事故報告書を大会事務局に郵送すること。
- (13) 全日本中学生ホッケー選手権大会において、抗議制度はない。
- (14) 試合終了後、両チームの監督は、ジャッジ席で署名すること。
- (15) その他、本規定に定めのない事項または、不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従うこと。
- (16) 決勝トーナメントの組み合わせについては、予選リーグ終了後に抽選会を実施する。その際、決勝トーナメントの参加チームは監督・コーチまたはそれに代わる者(成人)が必ず参加することとする。